

# あけぼのすぎ

都立府中療育センター新聞 第448号 発行日 平成27年3月31日

## 卒業・進級おめでとうございます！！

くぬぎ分教室 伊東 宏一

3月25日（水）、都立府中けやきの森学園・くぬぎ分教室の今年度の教育活動が終了しました。在籍生徒3名中、中学部・高等部からそれぞれ1名が卒業を迎え、他の1名が進級を迎えました。卒業・進級おめでとうございます。

卒業生・在校生が頑張ってきたことや卒業・進級に向けての取り組みについてお話させていただきます。

高等部の卒業生は学齢の進行とともに登校できる時間が多くなり26年度は、週5日間、安定した様子で友だちや担任との関わりを楽しむことができました。何回か経験してきていることについては教材を見たり特定の名称を聞いたりすることで表情を変えたり、手首に力を入れたりして次の働きかけを受け止めるための準備動作が取れるようになりました。



高等部卒業式を終えて (3/19)

中学部の卒業生は、少し離れた所からの働きかけに気付くようになり、人や物の様子を探索的に見て、聞いて、触れている時間が長くなりました。興味や関心の対象が広がり、好きなことをもっと続けたい時は「いやいやいや」・・・と特定の音声表現で、気持ちが伝えられるようになってきました。



中学部卒業証書授与 (3/24)



修了式 学習の記録授与 (3/25)

高等部の在校生は、週5日間、元気に登校して授業を受けることができました。身近な人との関わりでは目線や唇を動かしてやり取りすることが上手になりました。見たり、聞いたり、触れたりする力がより安定し、離れた所にある教材に気付くと笑顔で発見できたことの喜びや次の働きかけに対する期待感を表現できるようになりました。

例年、高等部3年生を囲んで「3年生を送る会」を行っています。在校生によるお祝いの言葉と楽器演奏、スライドによる卒業生の思い出発表など、楽しいひと時を過ごすことができました。スタッフやご家族の方々からは、お祝いのメッセージをいただいたり、素晴らしい会場装飾を準備していただいたりして思い出深い会を行うことができました。



3年生を送る会 (3/19)

学齢期の子どもの発達は、時に緩やかに、時に急速に進みます。同じことをしているように見えても、子どもはその都度、新しい発見をしています。この活動の積み重ねや発見こそが、次のステップへ向かう時の大きな自信や支え、見通しに繋がっていくのです。

最後に「卒業証書授与式」についてお伝えします。府中けやきの森学園本校の授与式に出席する場合と府中療育センター内で校長より証書を受け取る場合の2つがあります。今年度、くぬぎ分教室の卒業生2名は、本校の体育館の壇上に上がり、たくさんの方々の拍手や祝福を受けながら証書を受け取りました。

府中療育センターの関係の皆様には、いろいろご配慮、ご協力いただきましてありがとうございました。

## 第30回日本環境感染学会総会に参加して

検査科 猪狩 真子



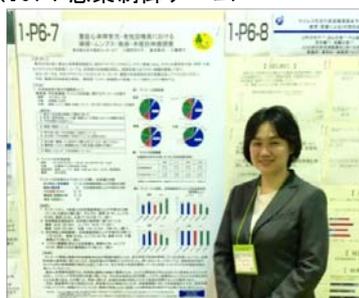
2月20日（金）、21日（土）の2日間、第30回日本環境感染学会総会が神戸にて開催されました。今回のテーマは「感染制御のさらなる推進—教育・啓発・人材育成—」です。教育、耐性菌と抗菌薬適正使用、サーベイランス、手指衛生、職業感染の5つを柱としてシンポジウムと教育講演が行われました。医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・事務職など感染に携わる多職種

の人たちが参加し、講演や他施設の取り組みに熱心に耳を傾けていました。

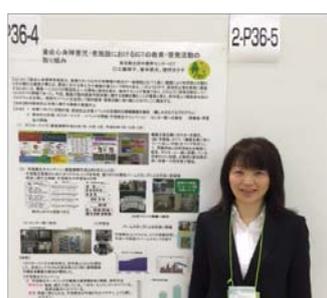
当センターでは、ICT（※）から石川医師、工藤感染管理認定看護師、猪狩、病棟から斎藤看護師、小田看護師ら6名が参加しました。そして、ICTから2題、ポスター&ミニ口演として発表しました。1つは工藤感染管理認定看護師から「重症心身障害児・者施設におけるICTの教育・啓発活動の取り組み」で、日頃から職員の皆様に参加していただいているポスタークイズ・手指衛生に関する活動（パームスタンプ、手指衛生の唄、擦式遵守率）・研修会など院内感染予防への取り組みを報告しました。手指衛生の唄は、多くの施設から聴いてみたい！と好評でした。もう一つは、私、猪狩より「重症心身障害児・者施設職員における麻疹・ムンプス・風疹・水痘抗体価調査」で、職業感染（ウイルス感染）を予防するための取り組みとして、職員の抗体保有状況について報告しました。新ガイドラインに入ったワクチン2回接種の勧めについて、コメントをいただきました。どちらも感染対策には重要なテーマであり、感染を広げないためにどの施設も様々な取り組みを行っていて、多くの情報を共有することができました。

今年は、阪神淡路大震災から20年。復興を成し遂げた神戸の町並みはとてもきれいで、美しい夜景と神戸牛のステーキを堪能して帰路につきました。今回の学会で得た情報をICT活動に取り入れ、今後の感染対策に役立てていきたいと思えます。

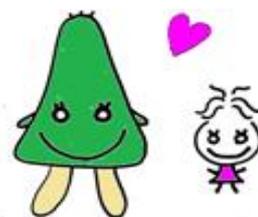
※ICT：感染制御チーム



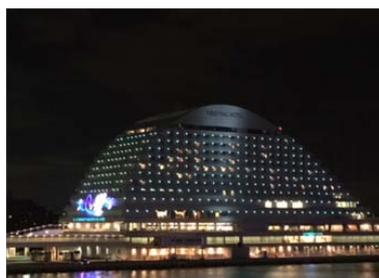
検査科 猪狩主任



工藤感染管理認定看護師



メタセこいやんとくぬぎちゃん



## 東京都重症心身障害プロフェッショナルナース育成研修 第三期 看護研究発表会・修了式が行われました！

事務室 奈良 朋子

3月19日（木）、東京都庁都民ホールにおいて、東京都重症心身障害プロフェッショナルナース育成研修第三期生の看護研究発表会及び修了式が行われました。

この研修は、重症心身障害の看護分野において、専門的な知識や技術を探求し、質の高い看護実践と指導的役割を果たす人材を育成するため、東京都が平成21年度に立ち上げた都独自の研修です。

当センターは、この研修の運営事務局として、研修会場の設営、講義資料や必要物品の準備、実行委員会の開催等、様々な役割を担ってきました。

第三期の修了生は、平成25年度からの2年間にわたる研修を修了した36名です。当センターからは6名の看護師が研修を修了しました。

修了生は2年間の研修において、重症児総論、重症児各論、実習、看護研究等合計154時間に及ぶカリキュラムを受講し、互いに切磋琢磨しながら学びを深めてきました。

看護研究発表会では、12のグループが2年間の成果を発表しました。発表会には、看護研究の指導をご担当いただいた昭和大学の入江慎治先生、国際医療福祉大学の小西美樹先生、筑波大学の涌水理恵先生にご出席いただいたほか、11名の来賓の方々をお招きしました。また、関係施設から聴講生も来場し、各グループの発表を熱心に聴き入っていました。

御指導いただいた3名の先生からは、各グループの研究についての講評と、修了生を労う温かいメッセージを頂戴しました。中でも、今後は学会発表を行って、日本やひいては世界にも広く研究成果を広めてほしいとの力強いお言葉が印象的でした。研修生にとって、今後の大きな励みになったと思います。

看護研究発表会に引き続いて、16時から修了式が執り行われました。

感慨深い表情を浮かべた修了生一人一人に、当センターの柳瀬院長から修了証書が授与されました。柳瀬院長の式辞に続き、秋津療育園の白井徳満園長及び東部療育センターの藤野孝子療育部長から御祝辞を頂戴し、厳粛かつ心温まる雰囲気の中、式は終了しました。

第三期生の皆さんには、2年間の研修で身につけた知識、技術、豊かな看護の力を自ら発揮するとともに、重症心身障害看護の真のプロフェッショナルとして、職場の中心となって大いに活躍されることを期待します。

なお、平成27年5月からは、第四期の研修がスタートする予定です。



当センター柳瀬院長の式辞



看護研究発表会の様子



修了証書授与の様子

## 指導科行事「おもちゃと遊ぼう会」

指導科 安齋 美穂



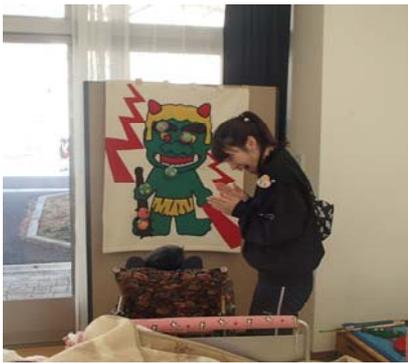
今年も3月11日（水）に「府中市おもちゃと遊ぶ会」と「府中市手作りおもちゃの会」共同の「おもちゃと遊ぼう会」が行われました。

今年も音や光の出るもの、飛んだり回ったりするもの、触って楽しむもの等々、色々なおもちゃが利用者の方たちを迎えてくれました。入り口で名札をつけていたので、ボランティアさんから名前でご話しかけられて、おもちゃの遊び方を教えてもら

いました、今年の干支「羊」の手作りマスコットのプレゼントを選ぶ素敵な笑顔も見られました。

年に一度の会ですが「府中市おもちゃと遊ぶ会」は28年、また、「府中市手作りおもちゃの会」は25年にわたって、センターと関わってくださっていて歴史の長い交流の場となっています。ボランティアさんの中には、おばあちゃん、娘、孫と三世代で関わってくださっている方もいらっしゃいます。利用者の方とも顔なじみになっているとのことで、触れ合いの場として大切にしてくださっています。

「また来年も微力ですが、参加させてください」とボランティアさんが最後にお話されていました。楽しみにしててください。



## 平成26年度退職者を送る会

事務室 栗原 拓



3月13日（金）、パレスホテル立川にて「平成26年度退職者を送る会」が開催され、5人の退職者を含め、総勢115名の職員が参加しました。

運営委員をはじめ、多くの職員の企画、運営により会場は笑いあり涙ありと、とても盛大で感動的なものとなりました。

今回、退職される職員の方々の中には、勤務形態を変え、引き続きセンターで働かれる方もいますが、退職者の皆様、長い間東京都に多大なる貢献をいただき、ありがとうございます。

〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

Fax 042(322)6207

\*-\*-\*ホームページもご覧下さい\*-\*-\*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>